

令和7年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- 児童生徒一人ひとりの教育的ニーズに応えることのできる、創造的で柔軟な学校。
児童生徒や保護者にとって、自立と社会参加にむけて楽しく安全で安心して学ぶことができ、教職員のやりがいと誇りがあり、地域から信頼される学校をめざす。
- (1) 児童生徒の人権を尊重し、保護者とのコミュニケーションを十分に図りながら、個別のニーズに応じた教育(適切な指導及び医療的ケアを含む必要な支援)を行い、才能を引き出すとともに能力を高める。
- (2) 教員は特別支援教育の専門性を高めるために、常に研修を行い、組織による教育力を高め、健康と安全を基盤とした教育の質を常に向上させる。
- (3) 泉州地域における共生社会実現をめざし、特別支援教育のセンター的役割を担うため、地域や関係諸機関等との密接な連携を図る。

2 中期的目標

- 1 授業力を含む専門性向上の取組み
- (1) 児童生徒の課題に対応する専門的知見を深め、教科指導および自立活動に関する専門性をより一層充実させていく。
- ア 今年度も全校教科会を開催し、各学部の取組みや各学部間の教科の連続性を図る。
- (2) 教職員の自立活動指導の専門性の向上のための研修の充実を図る。
- ア 児童生徒の動作状況の見方や動作の改善に有効な関わり方や介助技術の向上に繋がる研修を開催する。
- イ 担当首席、指導教諭、校務自立活動・研究部が中心となって「楽スタ」や「視線入力装置」活用例を各学部を広げる。
- 2 卒業後の余暇活動を見据えた授業の工夫や外部機関（医療・福祉）の理解・啓発を図る。
- (1) 卒業後の余暇活動を見据えた授業の工夫
- ア 新規購入した電気窯を活用し窯業作品作りに挑戦する。
- イ 泉南地区進路指導関係機関連絡会の企業研修会の場で本校の取組みを紹介する。
- (2) 外部機関（医療・福祉）の方を対象とした支援教育の理解・啓発を図る。
- ア 校内授業公開週間を活用し、外部機関（医療・福祉）への支援教育の理解・啓発を図る。
- イ 外部機関への理解・啓発の取組み紹介を校内（教職員や保護者）でも共有し更なる工夫を図る。
- 3 感染症や大規模災害、高度医療的ケアへの対応等、児童生徒の安全安心な学校生活を保障するために迅速に対応できる校内体制を確立する。
- (1) 大規模災害を想定した防災訓練や防災に関する知識の蓄積をする。
- (2) 大規模災害を想定した防災訓練や防災に関する内容を外部に情報発信する。
- 4 センターの機能の充実と安全で安心な学校づくり。
- (1) 泉南地域の支援教育の更なる充実をめざす。
- ア 校区内市町の就学前施設、小中学校教員対象とした支援教育に関する研修を開催し泉南地域の支援教育力の向上の一助を果たす。
- イ 校内就労体験を公開し、キャリア教育の内容を発信する。
- ウ 「肢体不自由のある子どもたちを理解するために」（仮題）小冊子を作成し、地域支援に活用する。
- (2) 児童生徒の人権を大切に安心できる学校生活を支援するとともに、教職員の人権意識の更なる向上を図る。
- (3) 支援を必要とする子どもたちの進路指導に関する情報提供を校内外に発信する。
- 5 「働き方改革」の推進
- (1) 業務改善を図り、一層の組織力を高める。
- (2) 介助用リフトを活用し児童生徒の安全安心な移乗を図ると共に教職員の安全安心な移乗介助を促進する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和7年10月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>・昨年度同様に、フォーム作成ツールにて実施した。教職員 96.5%保護者 44.2%児童 生徒 21.0%であった。児童生徒回答については 20 名の回答であったが、その内 2 名が本人の回答であった。来年度についても積極的に回答を促していきたい。</p> <p>・学校経営計画の関連項目については概ね目標値を上回っていた。しかしながら、教職員項目「教員の教科指導における専門性についての理解が向上した」肯定的評価（上位2項目）75%以上 [項目内容一部改訂] について、アンケート結果 71% と目標を下回っていた。</p> <p>今年度は言葉・数領域の学習をテーマに小～高等部までの一貫した指導について児童生徒の発達段階別に分科会を編成、情報交換と協議に取り組んだ。経験が少ない教員には難しいテーマながら肯定的回答は70%(4%が3名相当)を超えており、引き続き専門性向上に向けて全校的に取り組む。教職員項目「学校は分掌再編を通して業務内容を見直し、精選を進めている」の肯定的評価（上位1項目）を50%以上 [項目内容一部改訂] について、アンケート結果 30% と目標を下回っていた。・上記項目についての分析と来年度に向けては下記の通りである。今年度 PT を中心に取り組んだことであり、アンケートの段階では職員がまだ実感するに至っていない</p>	<p>第1回 令和7年6月4日（水）10:00～11:00 ○R7年度学校経営計画及び学校評価について ⇒地域への啓発は大事な視点である。高校生への啓発や就学前施設との連携も視野に入れていくことが肢体不自由教育に関心を持つことにつながり、さらに地域支援にもつながっていく。</p> <p>○R7年度学校教育自己診断について ⇒回収率を上げる取り組みを計画通りに進めてほしい。</p> <p>第2回 令和7年11月19日（水）10:00～11:30 ○年間テーマに基づく協議 ⇒ユニバーサルデザインについては、支援学校だけでなくすべての学校に取り入れていくことが大事だという意見が多く出された。</p> <p>○R7年度学校教育自己診断について ⇒回答率を上げるべくフォームでの回答後にチェック用紙の記入をするようにした。</p> <p>○防災フェスについては、事後アンケートより参加者の高い満足度を得られた。</p> <p>○「肢体不自由のある子どもたちを理解するために」の小冊子が完成し活用していく。</p> <p>第3回 令和8年2月4日（水）10:00～11:30 ○年間テーマに基づく協議</p>

府立岸和田支援学校

<p>ったと考えられる。 ・以上のことも踏まえ、今後も教育活動に邁進していく。</p>	<p>⇒これまでの協議での意見等を踏まえ、当初10項目であった内容を12項目に改訂した。 今後とも項目の整理や検討を重ねて肢体不自由校のユニバーサルデザインのモデルを確立し外部に発信していくことを課題としたい。 ○令和7年度学校経営計画及び学校評価（案） 今年度の取り組みとそれに対する学校の評価について了承した。 ○令和8年度学校経営計画及び学校評価（案） ⇒働き方改革について、学校の取り組みを簡素化するのではなく、根底には支援教育の魅力ややりがいがあるということを踏まえうえで進めてほしい。 内容について了承した。 ○その他、学校運営全般について ⇒学校教育自己診断結果を受けて、進路について不安に感じていることもあるのかと感じた。PTAでの学習会等を活用して情報共有できる機会をつくりたいと感じた。</p>
---	---

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R6年度値]	自己評価 <small>(教)教員向け学校教育自己診断肯定評価 (保)保護者向け学校教育自己診断肯定評価</small>
1 授業力を含む専門性向上の取組	<p>(1) 児童生徒の課題に対応する専門的知見を深め、教科指導および自立活動に関する専門性をより一層充実させていく。</p> <p>(2) 教職員の自立活動指導の専門性の向上のための研修の充実を図る。</p>	<p>(1) 今年度も全校教科会を開催し、児童生徒がわくわく（期待感）、どきどき（好奇心）する授業の取組みや各学部間の教科の理解や共有を図る。</p> <p>(2) ア 児童生徒の動作状況の見方や動作の改善に有効な関わり方や介助スキルの向上に繋がる研修を開催する。</p> <p>イ 担当首席、指導教諭、校務自立活動・研究部が中心となって重力軽減環境システム「楽スタ」や「視線入力装置」活用例を各学部での共有を推進する。</p>	<p>(1) R6年度と異なる教科を実施し、「教員の教科指導における専門性についての理解が向上した」の肯定的評価を75%以上とする。 〔教科を変更し新規〕</p> <p>(2) ア 大学教授を講師とし、動作学習の理論と実技について理解を深める。介護福祉士を講師とし、児童生徒への介助スキルを高める。研修事後アンケートの肯定率を80%以上とする。 〔新規〕</p> <p>イ 各学部で実践する重力軽減環境システム「楽スタ」や「視線入力装置」活用の具体事例を2例以上紹介し共有することで、活用実践に繋げる。 〔新規〕</p>	<p>(1) 言葉・数領域について全校縦割り分科会を編成し、発達課題別に検討を深めた。年3回実施。実施後アンケート肯定率は約80%。 （◎）</p> <p>(2) ア 大阪大谷大学小田教授・大阪府立障がい者自立センター 自立支援課萩原主査を講師として招聘し、いずれも実技を取り入れた研修を実施。実施後アンケート肯定率は100%。 （◎）</p> <p>イ 具体事例5例の取り組みの資料を各学部で共有した。また、実践論文にまとめられた。（◎）</p>
2 卒業後の余暇活動を見据えた授業の工夫や外部機関（医療・福祉）の理解・啓発	<p>(1) 卒業後の余暇活動を見据えた授業の工夫。</p> <p>(2) 外部機関（医療・福祉）の方を対象とした支援教育の理解・啓発を図る。</p>	<p>(1) ア 新規購入した電気窯を活用した窯業作品作りに挑戦し、作業工程を確認したり、丁寧な作品を作ったりする。また、分業して作る等、作業活動のスキルを構築する。</p> <p>イ 泉南地区進路指導関係機関連絡会の企業研修会の場で本校の取組みを紹介する。</p> <p>(2) ア 校内授業公開週間を活用し、外部機関（医療・福祉）への公開授業を実施する。</p> <p>イ 外部機関への理解・啓発に関する取組みを紹介し、校内（教職員や保護者）においても共有し、更なる工夫について検討する。</p>	<p>(1) ア 完成した作品を校外に展示し、成果を紹介することができる。また、担当者の育成を図るために、作業マニュアルが作成できる。 〔新規〕</p> <p>イ 高等部生徒が会場で参加、または録画参加し学校紹介や本人の思いが伝えられる支援ができたか。 〔新規〕</p> <p>(2) ア 事後アンケートで、参加者の理解度・満足度や肯定率80%以上とする。 〔新規〕</p> <p>イ 職員会議で学期末ごとに合計3回紹介することができたか。PTAだよりで年3回以上発信できたか。新たな工夫ができたか。〔新規〕</p>	<p>(1) ア 全校児童生徒が作品作りに参加した。岸和田のふれあい作品展に一部出品。作業マニュアルを作成および、全校教科会にて教員向けに研修機会を設けた。 （◎）</p> <p>イ 会場の機材トラブルはあったが、高等部生徒が録画したVTRでの学校紹介と、本人の思いを企業の方や関係機関の方々に伝えることができた。 （○）</p> <p>(2) ア 10月実施は参加者28名、肯定率が96%。2月実施は参加者53名、肯定率が100%。 （◎）</p> <p>イ 職員会議で3回、PTAだよりで3回発信できたが、発信方法の新たな工夫は検討半ばであった。（△）</p>

府立岸和田支援学校

				意図が教職員の実感として十分に共有されているとは言い難い状況であった。(△)
	(2) リフトを活用し児童生徒の安全安心な移乗を図ると共に教職員の安全安心な移乗介助を促進する。	(2) ・外部講師を招き、介護用リフト活用(様々な活用例の紹介)のための研修を実施する。 ・校内での活用例を紹介し、移乗介助に対する安全安心、そして安定性を把握する。	(2) ・介護用リフト活用研修を1回以上実施し、具体的な活用例を学部会や職員会議等で紹介する。 [新規] ・活用者のアンケートを実施し、移乗介助に対する安全・安心・安定性を把握し共有する。 アンケート肯定率 80%以上。 [新規]	(2) ・夏季休業中に教員向けの研修を実施した。行事での体験ブースや教育相談時に体験を行った。また活用例を校内掲示にて紹介した。 (◎) ・安全に関する問いに対して活用者の100%が肯定的な回答であった。また、生徒、教員ともに身体的・心理的負担軽減の項目について、96～100%が肯定的な回答であった。 (◎)